

月報 101

発行所

青丘文庫

編集・発行★館 蔵

〒854 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1

メゾンド青丘ビル2F

TEL (078) 734-5989

FAX (078) 735-0868

阪神、淡路大震災では大変ご心配をおかけ致しました。心より深く感謝申し上げます。以前に青丘文庫が在りましたエバグリーンビルは全焼して終いましたが、幸い須磨寺町の青丘ビルは軽微な損壊で済みましたが、文庫は書棚が全部倒壊し、書籍は四方に散乱して足の踏み場も無いくらいで途方にくれていましたが、桃山学院大学の杉本さんが、学生・OB八人のボランティアをつれてきて下さり、半日掛りで書棚を立て直し、書物を一応入れて下さいました。その後、民族・在日・韓キ研の(人)の人たちが二回にわたって分類整理して頂き、どうにか復旧致しました。まだ休館中ですがゴールデンウィーク後には開館しようと思っております。

一月以来閉館し、研究会も開けず、月報もだせず、まことに申しわけなく深くお詫び致します。五月以降は幾らか平常に戻れるのではないかと考えております。

然し乍ら須磨寺商店街は壊滅し、周囲一帯が倒壊しており、解体撤去の騒音と埃りが充満している日日で、まだ平静にはなれません。エバグリーンの方は区画整理事業区域に指定され、建築も制限されており、市の計画はなかなか具体化せず、先行きは不透明です。三社位いでグループを組み交渉しているところで、前途はなお多難の感があります。

然し悪い事ばかりだけでは無く、震災直後の二月一六日同志社大学のハリス理化学館の西庭に、詩人~~手束~~柱の詩碑が五十周年忌に建立された事は一九九一年以来、建立活動を進めてきた者として大きな喜びでありました。

震災は私にとっても大打撃でしたが、これを転機に私にとって何度目かの大転換をどうするか、わが生もそろそろ暮れ方かと思っていた矢先の、千年に一度の大地震で仰天、目が覚め、一寸あの世にはまだ行けんな、もう一働きせにゃいかんなど少し面白くなり、元気が出だしたところでした。

JRも全線復旧し、五月からは研究会もそれぞれに再開されますので、四ページの案内にあわしてご来館下さい。

戦前期における在日朝鮮人の被選挙権行使

在日朝鮮人運動史研究会 一九九四年二月一八日 松田利彦

戦前期の在日朝鮮人の立候補については、いくつかの研究で言及されているが、その全体像の分析についてはいまだ不十分であるように思う。本報告は、パソコンによるデータ処理なども用い、また立候補者の集票構造などについても考察した。

朝鮮人立候補の法的根拠は、一定年齢以上の「帝国臣民」の被選挙権を定めた衆院選挙法・市町村制等だが、それが朝鮮人に適用されることは二〇年代末から三〇年代初めにかけて内務省内でも確認されていた。しかし、この時期、在日朝鮮人が立候補して現実に当選を手にする条件が整っていたとは言いがたい。初期の朝鮮人候補の分析から判るのは、朝鮮人有権者数が少なかったこと（選挙法中の居住要件などによる）、および朝鮮文字による投票が認められていなかったことが大きな障害となっていたということである。しかし、一九三〇年代はまさにこのような状況が不十分ながら改善された時代であり、三三年、二人の朝鮮人候補（朴春琴、朴炳仁）が当選したことも朝鮮人の立候補に拍車をかけた。

立候補者数の推移、また立候補した地域の広がりを見ても、一九三〇年代、特にその後半から朝鮮人の立候補は本格化した。しかし、そのころは直ちに朝鮮人の政治的権利の伸長に結び付いたわけではなかった。

三〇年代末から地域によっては泡沫候補の乱立のためかえって当選率が低下し、それを「一大耻辱」と評する『東亜新聞』（三九年八月五日）のような見方も現れた。

朝鮮人立候補者は職業構成の点では、ほとんどが有職者であり、また商業・有識的職業に従事する者が比較的多く、全体の約四割を占める労働者では「親方層」が比較的多数を占めたことが特徴として指摘できる。また、所属団体については、日本の政党に所属する者は少数で、大半が「朝鮮人団体」とりわけ「融和親睦系」が多数を占める。この系統の団体は日本人の散票確保につとめるとともに、朝鮮人票を固める有力な「集票マシン」として機能した。『民衆時報』（三五年七月一五日）は、「選挙運動ブローカーの融和業を看板にかかげる朝鮮人団体」が、警察に拘留された同胞の身柄を引き受けるかわりに、投票を強要する実態を伝えている。

かかる朝鮮人の被選挙権行使は、多く親日派によって担われたという意味で、（いくらかの例外はあるものの）総じて在日朝鮮人の社会主義・民族主義運動などと連動する性格は弱いと言わなければならない。立候補者に対する同胞有権者の視線にも期待と失望とが入り混じっていたように思われる。

新刊図書

韓国キリスト教の受難と抵抗

韓国キリスト教史一九一九～四五

韓国基督教歴史研究所著

韓哲曦・蔵田雅彦監訳

新教出版社

戦後満州の朝鮮義勇軍

——中国革命から朝鮮戦争へ——

姜 在 彦

近代朝鮮の民衆宗教と民族運動

趙 載 国

〈研究ノート〉日帝下の朝鮮小作争議の

統計をめぐる

飛田 雄一

書評 廉仁鎬著「金元鳳研究——義烈団、
民族革命党四〇年史」

鹿嶋 節子

民族運動史上の人物〔連載七〕

李昇薫(李省展)/趙鏞夏(李卓)/楊林(金勲)
(水野直樹)/崔庸健(森川展昭)/申鉉商(堀内稔)

朝鮮民族運動史研究

No. 10

発行

青丘
文庫

新図書案内

- ★年表 韓国現代史（一九四五年八月六日—一九四八年八月一日）
李賢宰著 韓國精神文化研究院
- ★韓国思想史大系（一—六）
赤松智成、秋葉隆著 民俗苑
- ★満家の民族と宗教
松原孝俊著 高麗書林
- ★朝鮮神話
丹羽基二著 高麗書林
- ★姓氏の語源
金日成著 雄山閣
- ★金日成回顧録 世紀とともに一—三
申大興著 雄山閣
- ★最新 朝鮮民主主義人民共和国地名辞典
菊地寛著 原書房
- ★満鉄 外史
雄山閣
- ★日本帝国主義下の満州 満州史研究会 御茶の水書房
- ★キメラ 満州国の肖像 山室信一 中央公論者

研究会御案内

◆合同研究会

日時 一九九五年五月二一日（日）

第一部 朝鮮民族運動史研究会 第一四二回例会

時間 午後一時半—三時

報告者 李卓氏

テーマ 「最近の李東輝伝記資料について」

第二部 在日朝鮮人運動史研究会 第一七三回例会

時間 午後三時半—五時半

報告者 金英達氏

テーマ 「開放後半世紀の在日朝鮮人社会の人口動態

*場所はいづれも青丘文庫にて